

そうか... そんなことを考えながら描いていたのか。



◀◀ playback Artist Talks ▶▶

人間が見るということの不思議さを
私は常に思っていて
そういった自分の知覚を通して感じたことを
絵の上で表現したい

日高理恵子 ▶▶

色でもあり形でもあるもの
色でもなく形でもないもの
そういう中間に
存在するものを求めながら

秋岡美帆 ▶▶

イメージがもっと外の空間を
補ってくれるというか
キャンパスの中に描かれているもので
見えていないものを想像させたりとか

丸山直文 ▶▶

絵っていうのは色が光に見えたら
イメージが立ち上がってくるという

私たちが日常の中でいろいろなもの
を見ている時の感覚って
一体どういう感覚なんだろう

児玉靖枝 ▶▶

当館では2005年以来、コレ
クション展に展示された作品の前
で、活躍中のアーティスト本人に
自作について語っていただく「ア
ーティスト・トーク」を開催してき
ました。この催しはこれまでに30
回を数えます。そもそも、現代の
作品に接するための親しみやすい
導入になることを期待して始められ
た催しですが、作者のそれまでの歩
みや、そのときに考えていたことな
どがわかりやすく語られており、理
解を深める上で貴重な機会となっ
ています。そしてこれらのトークを
収録した映像は、長い目で見れば
歴史的証言にもなっていくに違
いありません。

東京国立近代美術館

絵を描くという行為自体原始時代から
呪術的なものだったんじゃないかなと

なぜ僕たちは何万年もの間 絵を描き続けてきたのか

岡村桂三郎 ▶▶

耕すというような
人間の行為
営みということを作る

フィールドとか大地とか
人間と自然とが
長い歴史の中で
育んできた調和みたいな

中川佳宣 ▶▶

一番僕にとって
嬉しいのは
作品と見た人の間で
なにか
そこで生成変化が
起きていること

山口啓介 ▶▶

このたびの展示では、これまでのさまざまな分野のトークの中から、とくに絵
画に焦点をあて、トークのダイジェスト映像と当館コレクションの作品とをあ
わせてご紹介します。登場する画家たちはいずれ
も、1970年代末から80年代にかけて発表を
始めていますが、それはまさに、ミニマル・ア
ートやコンセプチュアル・アートといった、従
来の美術のあり方を厳しく問い直そうとする動
向の後を受けた、難しい時
期にあたります。表現が極限まで切り詰められ、「見ること」「作ること」を
根本から捉え直さなければならなかった状況から、彼らは絵画の豊かな可
能性をどのようにして取り戻していったの
か。そうした課題の追究の成果が、彼らのト
ークや作品から感じ取れることでしょう。

広がりや奥行きを
感じている
自分の存在の
生々しさー
それが僕は
リアルだと思います

鈴木省三 ▶▶

僕らは自分の絵を描いて
もう少し自分たちの
言葉で具体的に
語っていかなくちゃ
いけないじゃないかなと

長沢秀之 ▶▶

自分から発した色
自分から発した形
最良な形と色との出会いというか

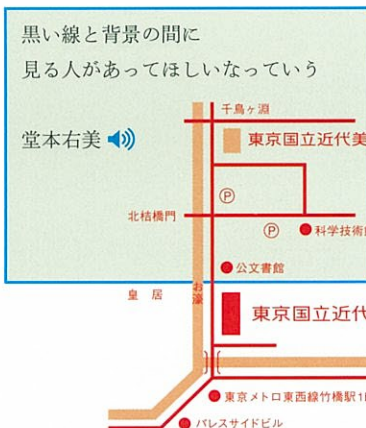
最小限にして最大なものを
語りたという

辰野登恵子 ▶▶

絵は彫刻よりも
ずっと空間的であると
感じていました

絵は描きたいがこの枠の中で
終わらせるわけには
いかないという

小林正人 ▶▶



アクセス：
東京メトロ東西線 竹橋駅1b出口 徒歩3分
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
お問合せ：03-5777-8600 (ハローダイヤル)
HP：http://www.momat.go.jp

〈講演会〉
2013年7月6日(土) 14時~15時30分
天野一夫 (豊田市美術館チーフ・キュレーター)

2013年7月20日(土) 14時~15時30分
谷新 (宇都宮美術館館長)

2013年7月27日(土) 14時~15時30分
建畠哲 (京都市立芸術大学学長)

同時開催 「都市の無意識」ギャラリィ4 (2階)

所蔵作品展「MOMATコレクション」(4~2階)
2013年6月4日(火)~8月4日(日)